



宗岡二小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子

志木市立宗岡第二小学校

令和3年度 No.8

令和3年1月1日

志木市上宗岡3丁目13番1号

TEL 048-473-2305

児童数11月1日現在389名



もう少し他者に寛容になりませんか」

校長 可知 良之

「不寛容社会」という言葉を最近初めて耳にしました。不寛容社会とは自分の主義や信条と合わない行動を取る他人を叩いたり批判したり、さらには人格否定まで行う人が増えた社会のことで、今日本は急速にこの不寛容社会になってきているのだといえます。そういえば、そのように感じる場面にしばしば遭遇します。コンビニエンスストアでレジに戸惑っている店員に罵声を浴びせかけるお客、法定速度で安全運転をしているにもかかわらず、後ろから異常に接近して煽ってくるドライバー、無人の自動販売機でお金を入れたのに商品が出てこなかったことに腹を立て、機械を蹴飛ばしている人などなど、皆さんも不寛容社会を身近に感じたことがあるのではないかと思います。煽り運転や SNS での著名人に対する過剰ともいえるバッシングはもはや社会問題となっています。誹謗中傷により自殺してしまった芸能人もいました。こうした問題は著名人に限ったことではなく、一般の大人や子どもの世界にもすぐに浸透してしまうのではないかと危惧しています。

長野県の医師会はホームページで「不寛容な社会—もう少し他者に寛容になりませんか—」と呼びかけています。不寛容の根底には自己中心的な考えに基づく怒りの感情があって、それが攻撃的な言動に結びついている。便利に慣れすぎた社会、個を尊重しすぎる風潮や教育、インターネットの発達、個人情報保護に名を借りた匿名性など原因は1つではないといえます。そして、不寛容社会は不安定で、危うさや息苦しさを伴っていますが即効性のある処方箋

はないと言っています。個々が意識して、ある程度気に入らないことでも受け入れる寛容性をもち、他者の悪い部分ではなく、良い部分にもっと目を向けることでしか社会は変わらないと結んでいます。

この考えには私も全く同感です。では、小学校では何ができるのでしょうか。小学校の学習において唯一「寛容の心」を直接学ぶ教科があります。それは、平成30年度から教科化された特別の教科道徳です。3年生から相互理解、寛容という内容で教育課程に位置付けられています。3, 4年生では自分の考えや意見を相手に伝えるとともに相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることを、5, 6年生ではさらに謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することを学んでいきます。こうした学習の積み重ねが一人一人の子どもたちの人格形成に大きな影響を与えるのではないのでしょうか。子どもたちにとってこれからの社会が、多様性を受け入れ他者への思いやりのある寛容社会であるように、また、その担い手となれるよう道徳教育を一層推進すべきと考えます。ご家庭でも道徳の教科書をお子さんと一緒に読んでみてはいかがでしょうか。お子さんの道徳的心情の成長を垣間見ることができるかもしれません。

志木市では日本文教出版の道徳の教科書を使用しています。教科書は毎年展示会場で見ることができます。また、書店や通販で購入することもできます。